

安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画

策定・評価委員会 会議概要

1	会議名	令和4年度 第2回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
2	日時	令和4年9月26日(月) 午前9時30分から午前11時15分
3	会場	安曇野市役所本庁舎 3階 共用会議室 307
4	出席者	磯野会長、細川副会長、土肥委員、二村委員、水原委員、大澤委員、山田委員、小澤委員、川崎委員、桜井委員、長澤委員、森岡委員 計12名
5	市側出席者	山田市民生活部長、保科地域づくり課長、金子まちづくり推進担当係長、平林まちづくり推進担当主任、藤原まちづくり推進担当主任
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和4年10月11日

協 議 事 項 等

1 概要

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 報告事項

① 先進地視察研修について

- ・コロナウイルス感染者数の増加により延期していた視察研修について、日程が確定したため、報告した。
- ・以前取りまとめた委員からの質問事項は視察先に連絡済み。追加で質問がある場合は、早めに事務局までお知らせいただくか、当日の意見交換の中でお話いただくことを委員へ依頼した。

【質疑・意見等】

- ・特になし

② 第4回 学習会の概要について

- ・8月26日に実施した第4回学習会にて、本年度実施する市民アンケート調査(案)について意見交換を行ったこと、また、学習会でいただいた意見について報告した。

【質疑・意見等】

- ・特になし

③ 令和4年度に市と各種団体が実施する個別協働事業について

- ・本年度庁内で実施されている協働事業について、各課から情報収集したことを報告した。
- ・対象とする事業は、協働の計画に示されている協働の形態の内、「共催」、「実行委員会」「事業協力(協定)」であることを報告した。

【質疑・意見等】

(委員)

- ・共催等に対する相手方の団体が、宗教団体であることの判別は難しいが、今後はどういう団体が示さなければ、市民の理解は得られないと考える。

(事務局)

- ・共催、後援については、市及び市教育委員会で、それぞれ要綱等で規定を定めており、これに則って審査している。
- ・昨今の社会情勢を鑑み、慎重に対応し、厳正に審査していくということを聞いている。

④ 市民活動サポートセンター事業実施状況について

- ・第1回で報告した市民活動サポートセンター事業計画に基づき、9月末時点の実施状況を報告した。

【質疑・意見等】

(委員)

- ・相談支援は、来庁による相談と職員が出向いて伺う相談の割合はどうか。また、一人から複数の相談を受けると思うが、相談分類ごとに件数をカウントしているのか。

(事務局)

- ・本年度は、来庁による相談が多い。ホームページの閲覧や、「ゆるつな」などの事業でセンターを知って、活動を始めたい方などから相談をいただくことが多い。
- ・一人の相談者からの相談内容だが、分類に分けると、多い方でも一人2～3件の分類。

(委員)

- ・市民活動フェスタのチラシはとても見やすく素晴らしい。

(事務局)

- ・市民有志の企画運営チームの中で技術のある方に作成していただいた。

(委員)

- ・自然な形の協働である。

(委員)

- ・フェイスブックなどSNSの閲覧を増やすにはどうしたら良いか。

(委員)

- ・閲覧者によるシェアで広まらないとアクセスは増えない。

(委員)

- ・チラシはどこに設置するのか。

(事務局)

- ・公共施設などに設置する。また学校等に配布する予定。委員の皆さんやお知り合いにも周知や配布にご協力いただきたい。

(委員)

- ・区の回覧はできないか。

(事務局)

- ・市の規定により回覧は難しい。市広報で周知している。

(委員)

- ・庁内で開催される各種委員会の委員等にチラシを配布して周知したらどうか。

(委員)

- ・市民活動フェスタのチラシは、企画運営チームのメンバーがボランティアでデザインしてくれたもの。謝礼の予算化について検討してほしい。

(事務局)

- ・意見として参考とさせていただく。

(委員)

- ・市民活動フェスタは何回目か。

(事務局)

- ・現在の形で始めたのは令和2年度からであり、コロナもあり形は異なるが、今回は3回目。

~~~~~ 休憩 ~~~~~

(4) 協議事項

① 市民アンケート調査(案)について

(事務局)

- ・計画の評価検証及び次期計画に参考とする観点から、調査票案についてご意見をいただきたい。

(委員)

- ・区と市民活動の設問について、区は加入の有無で参加についての設問はない。市民活動は参加の設問はあるが、団体等への所属の設問はない。そろえた方が良いのではないか。
- ・区も市民活動も加入や所属をしても活動に参加していない人もいて参加の形態は様々。一緒に市民活動に参加しているか聞くだけでは実態の把握にはつながらないのではないか。
- ・市民活動サポートセンターは、活動を始めたい人、既に活動している団体等と区別して対応が必要になる。支援に活かすためにも団体への所属と活動への参加の区別をアンケートの設問で設計することは必要ではないか。

(委員)

- ・市民活動の設問に、団体に所属しているか確認する設問を設ければどうか。

(委員)

- ・調査としては細かすぎる。ほとんどの人が市民活動に参加していない現状がある中で、サンプル数が少なすぎ、十分なデータが得られない。
- ・区について、加入だけでなく防災訓練等、活動への参加について聞くことは良いのではないか。

(委員)

- ・今から難しいかもしれないが、まちづくりに参加している人と、していない人のアンケートを分けたらどうか。
- ・タイトルは大事なので工夫ができないか。タイトルが難しいと回答を避けられてしまいやすい。

(委員)

- ・「市民活動」という言葉はわかりにくい。「ボランティア活動」とした方がわかりやすい。
- ・設問に住まいの種類を入れた理由は何か。

(事務局)

- ・住まいの種類を設問に入れたのは、区の加入状況を分析するため。
- ・「ボランティア」という表現にすることについて、委員の皆さんのご意見を伺いたい。回答の補足文では市民活動とボランティア活動の両方を含めることを記載している。

(委員)

- ・市民活動は地域課題解決というボランティアよりも一歩踏み込んだ活動であり、両者は異なる。市民活動サポートセンターは両方支援対象であり、事務局案で良いと考える。

(委員)

- ・社会参加というくくりではボランティア活動も市民活動も同じだが、両者の色合いは異なる。

(委員)

- ・ボランティア活動も回答の対象だが、「市民活動」が目立つと、関係ないと回答しない方がいることを懸念している。ボランティア活動をもう少し目立つようにした方が良い。

(委員)

- ・設問を「市民活動及びボランティア活動」としたらどうか。

(委員)

- ・調査票案ではボランティア活動も含めることを補足で記載してあるので、二重線を引いて目立つようにしたら良いのではないか。

(委員)

- ・年齢を回答する設問について、前回のアンケートでは該当する年代を回答欄から選択する形式だったが、今回の案では年齢を数字での記入にしたのはなぜか。

(委員)

- ・年齢を実数で聞いた方が、集計時に色々な分析に活用ができる。

(委員)

- ・年齢の実数では、その歳の方からの回答が無い可能性もある。

(事務局)

- ・集計の際には年齢別ではなく、一定の年齢の範囲で分析する。実数で聞いた方が、分析の必要に応じて範囲を設定でき、詳細な分析が可能になると考えた。

(委員)

- ・自分の正確な年齢に自信がもてず、回答しなくなる人もいるので、選択肢の方が回答しやすい。

(委員)

- ・区の加入の設問について、これまで加入したことはないが今後加入したい方の、加入したい理由を聞き取る設問が欲しい。

(委員)

- ・区に加入していないと防災活動などの通知がいかない。役員は嫌でも防災活動には参加したい人もいる。

(委員)

- ・市民活動サポートセンターについて知らない方も多い中で、今後センターが何をやっていくのかをアンケートで確認するのは難しい。センターを利用している方から別途アンケートとることも検討してほしい。

(事務局)

- ・全体の中で調査することも意義があると考えている。利用している方からは、都度、取材や相談等の機会を通じて課題等の情報を収集し、センターとして必要な支援を随時検討している。別途アンケートをとることについては、今後検討したい。

(委員)

- ・市民活動サポートセンターは知られていないので、窓口と情報コーナーの写真を入れてほしい。

(委員)

- ・今回のアンケートは第3次の計画を策定するためのものなので、そもそも第2次の計画を知っているのか、認知度を聞いた方が良いのではないか。

(事務局)

- ・計画書は市の取り組みを定めたもの。直接市民の皆さんに見てもらう機会が少ないのが現状だが、情報コーナーや図書館等に設置していること、また、第2次計画の際には市広報で4ページ特集記事を掲載して紹介させていただいた。

(委員)

- ・タイトルやアンケートの依頼文に、「計画の策定のため」とあると、回答を遠慮してしまう方もいる。これは必要なのか。

(事務局)

- ・ご意見は理解できるが、アンケートを実施する際は、その目的を明記する必要がある。

(委員)

- ・アンケートの依頼文に、「市民や組織・団体」とあるが、「行政」という表記も必要。
- ・同じく、「不足を補い合い」という表現には疑問を感じる。プラスとプラスで協働するので、不足を補い合うわけではない。

(事務局)

- ・表現を工夫する。

(委員)

- ・前回のアンケートは回収率が低い。今回は回収率が上がることを願う。

(事務局)

- ・今回、インターネットでの回答もできる。回収率が上がるよう、工夫していきたい。

## ② その他

- ※特になし。

## (5) その他

- ※市民活動フェスタについて事務局から周知。

## (6) 閉会